

八幡図書館の移転整備計画について [概要版]

1. 移転整備について

(1) 移転の方針

八幡図書館の敷地が新八幡病院の敷地として活用されるため、八幡図書館は新八幡病院の整備スケジュールにあわせて、平成27年度末を目途に移転する。

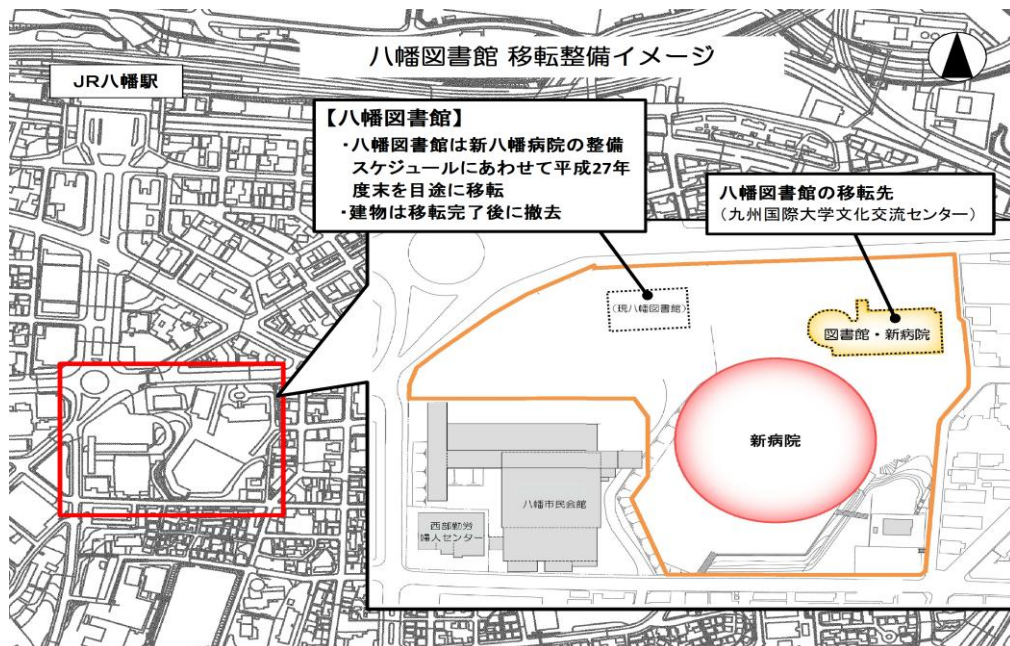
(2) 移転整備の考え方

現在の八幡図書館は築50年以上が経過しており、かなり老朽化している。加えて、図書館機能の充実の観点からも、時代に沿った生涯学習の場とはいえない状況である。

新八幡病院の管理部門として活用予定の九州国際大学文化交流センター内に図書館を移転させることは、公共施設マネジメントの方針である施設の複合化や多機能化を図ることができるとともに、図書館としての機能性の充実や開放感のある空間づくりに取り組むことができ、市民サービスの向上が可能になる。

(3) 移転場所

- ・所在地 北九州市八幡東区尾倉二丁目6番1号



(4) 施設計画等

内容	(新)八幡図書館	八幡図書館
延床面積	約 1,400 m ² (1階と2階の一部)	1,536 m ²
蔵書数	約 17 万冊	19万冊
閲覧席数	約140席	132席
駐車台数	約20台	19台

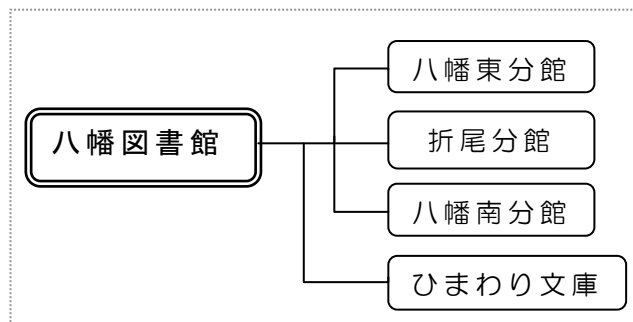
(5) 移転後の目標

- ・貸出者数 約 7万人/年
- ・貸出冊数 約 25万冊/年
- ・来館者数 約 19万人/年
(平成25年度実績の3割増を目指す)

(6) 運営手法

指定管理者制度を継続する
(八幡図書館八幡東分館、折尾分館、八幡南分館、ひまわり文庫の運営と合わせて、指定管理する。)

「八幡図書館」系統図



(7) 概算工事費

約2億円

八幡図書館移転整備は新八幡病院の整備スケジュールにあわせて
工事を行うことにしている。

(8) 整備スケジュール

- 平成25年度 移転整備案検討
- 平成26年度 アンケート調査、整備計画策定、設計業務に着手
- 平成27年度 設計完了、移転改修工事
- 平成28年度 供用開始

2. 施設整備について

(1) 施設整備の方針（コンセプト）

施設規模としてはコンパクトながらも、地区図書館としてふさわしい図書館機能の充実と多機能化を図り、次世代を見据えた取り組みを行う。

(2) 施設整備の工夫

- ・アンケート調査(H26.6.24～7.15)で市民から頂いた意見・要望等を踏まえて、将来を見据えた図書館機能の充実を目指し、施設整備に取り組む。
- ・利用者が気軽に立ち寄れるように、1階部分に主な図書館機能を配置。
- ・コンパクトな書架スペースながらも、書架間の間隔を広くするなど、使い勝手の良い、オープンでゆとりのある空間づくり。
- ・子どもから高齢者、障害者・児など多くの人々に親しまれる図書館。バリアフリー化はもとより、机、椅子、サインなど、ユニバーサルデザインの理念でもある、誰もが使いやすい施設づくり。

(3) 配置ゾーニング計画の考え方

●開放的で、明るい空間に本を配架

- ・開放的で、明るく、ゆとりのある読書空間を提供。
- ・書架間を車椅子で移動できる動線の確保や拡大読書機の導入、大活字本コーナーなど高齢者や障害者・児にも配慮した読書空間整備。

●子育て支援に対応した取組み

- ・絵本や児童書、育児書の収集・充実により一層取組み、子どもの読書活動や子育て支援機能を強化。
- ・子ども専用トイレや赤ちゃんの駅(おむつ交換コーナー)を設置するなど、子どもと共に読書が出来る空間整備。

●次世代の図書館を見据えた機能の充実

- ・オンライン閲覧データベースの導入や、CD、DVDの視聴や貸し出しを行うなど、電子情報や視聴覚資料の充実。
- ・無線LAN機器(Wi-Fi対応)の設置の検討。

●時代に沿った生涯学習機会の提供

- ・市民アンケートの中で最も要望の多かった学習室機能の充実。隣との間仕切りを設置するなど、圧迫感がない、快適な学習環境を整備。
- ・市民の暮らしに役に立つ講座や地域の人々が自ら課題を発見し解決方法を議論して探す「課題解決型」学習会を開催できるセミナー室の設置。

●『滞在型』図書館への移行

開放的で、奥行きのあるエントランスホール、飲食することができる休憩スペースなど、ゆとりのある空間で快適に過ごせる図書館を演出。

●八幡の歴史を継承する郷土資料コーナー等の設置

- 郷土出身の詩人・児童文学者「みずかみかずよ」の業績を紹介。
- 旧官営八幡製鐵所関連施設など世界遺産登録に向けてのPRコーナー。
- 八幡大空襲など郷土の歴史資料の展示。

(4) 施設配置イメージ (新八幡図書館は新八幡病院との複合化施設)

※図書館は現在の「九州国際大学文化交流センター(3階建)」の、1階と2階の一部を使用する予定

